

2023年度ワーキンググループ活動計画書

(2023年6月～2024年5月)

2023年5月29日

1 ワーキンググループ活動計画

◇ クラウドプライバシー WG

(1) ワーキンググループの目的

クラウド環境におけるプライバシーおよび個人データの保護および取り扱いに関して、グローバル及び日本の視点でガイドラインを出していくことを目的とする。CSA本部では、PLA(Privacy Level Agreement)を公開し、EU データ保護指令や一般データ保護規則 (GDPR) に基づいて、クラウド上でプライバシー・データをどのように保護し取り扱うかに対するガイドラインを示している。また、日本においては、改正個人情報保護法が2017年5月30日に施行され、これに基づいて個人情報をクラウド上でどのように保護し取り扱うに関する指針が必要となっている。このような状況において、CSA ジャパンとして、クラウド環境におけるプライバシーの保護および取り扱いに対して、日本及びグローバルの観点から検討を行い、情報の公開を行っていくことを目的とする。

(2) 2023年度活動計画／目標

- 活動計画
 - CoC_JP Ver1.2 の編集方針をか確定し、を作成に着手する。

◇ CCM ワーキンググループ

(1) ワーキンググループの目的

CSA ジャパンとして、米国 CSA 本部が公開した CCM (Cloud Control Matrix) に独自の検討を加え、「日本版 FedRAMP」と呼ばれる「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度 (ISMAP)」とのマッピングを行い、日本政府が求めるクラウドサービス調達におけるセキュリティ水準の確保と評価に貢献することを目的とする。

(2) 2023年度活動計画／目標

- 全体；活動計画
 - WG 開催数：2022年6月から2023年5月の間で、11回計画する。
 - WG 参加数：登録16人、平均参加者4人で、管理策の検討を計画する。
 - WG 進捗率：v4.0.6およびLightは、100%完了で計画する。
- 詳細；23年6月から7月の計画
 - 7月までに、CCM_v4.0.6は、翻訳とマッピングの追加/削除/変更を継続し、公開する。
 - 8月から、CCM_Lite の翻訳と内容検討を開始し、今秋、公開する。
 - ISMAP の各管理策について、どこまで実施すべきか、CSA 日本支部としての判断基準を作りたいという要望があった。この件は、継続検討とする。
 - IoT 管理策とのマッピングを検討。
 1. IoTマトリクスは、デバイス/ネットワーク/ゲートウェイ/クラウドサービスのアーキテクチャの管理策を提示し、CCMともマッピングしている。従って、IoT-WGとも協力し、整合性のあるレポートを検討する。

- AI管理策とのマッピングを検討。

◇ CASB ワーキンググループ

(1) ワーキンググループの目的

IaaS/PaaS/SaaSのクラウド利用増加に伴い、クラウドアクセスの制御、可視化、クラウド環境設定の監査とガバナンスの強化、脆弱性の管理や、最近顕在化している SaaS の設定ミスによる情報漏洩などの様々な課題が増えてきています。このWGではこれら課題解決を目指すために、クラウドセキュリティを学び、情報を交換し、できるだけそれらを分かりやすく外部に発信していくことを目的とします。

(2) 2023年度活動計画／目標

- 活動計画
 - 月1回程度の定例会によるSaaSセキュリティ情報交換、活動共有
 - SaaSセキュリティ/ガバナンスに関連した資料の翻訳やプログ化
- その他
 - WG名と活動内容にずれが生じていることから、WG名の変更を継続検討

◇ IoTクラウドサービスワーキンググループ

(1) ワーキンググループの目的

IoT（もしくはM2M）、とりわけスマート家電などに対して、クラウドから提供される各種サービスへの脅威とその対策について検討、提言を行う。

(2) 2023年度活動計画／目標

- WG内勉強会の継続
 - IoT Controls Matrix v3 輪講の継続
 - クラウドプロバイダが提供するIoTサービスの調査
- IoTの使われ方、ユースケース（医療、スマートシティなど）の調査・検討
 - オージス総研、LAC TOWNあたりのソリューションを検討
 - その他、IoTユースケースの検討
- CSAが今後公開してくる資料の翻訳・公開

◇ 健康医療情報管理ユーザーワーキンググループ

(1) ワーキンググループの目的

CSA-JC 健康医療情報管理ユーザーワーキンググループは、CSA グローバルの Health Information Management Working Group の活動に準拠して、患者／生活者中心の視点から、健康医療分野のクラウド利用に係るセキュリティ／プライバシー保護を支援するための基本的な調査研究を提供し、エンドユーザー向けのクラウドセキュリティに関する啓発活動を推進することを目的とする。具体的な活動に際しては、一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンスにおける各ワーキンググループおよびその他のイニシアティブとの連携を図るものとする。

(2) 2023年度活動計画／目標

- 国内活動
 - ライフサイエンス／医薬品／医療機器産業、医療機関／介護施設／健康増進サービス事業者、患者／消費者を含む健康医療情報バリューチェーン全体における CSA ガイダ

ンス、CCM、STAR 認証、医療機器/遠隔医療セキュリティガイダンス、IoT セキュリティガイダンス、アプリケーションコンテナ/マイクロサービス/サーバーレス・ガイダンス等の有効活用の推進活動

- CSA のワーキンググループが主導する CSA ガイダンス、CCM およびその他発行情書類（例. IoT セキュリティガイダンス）に関する、業界の視点に立ったピアレビューの実施およびフィードバックの提供
- 健康医療情報に関わる国内外の主要なステークホルダーコミュニティ（例. フォーカスグループ、業界団体、研究機関、フォーラム、学術団体など）との積極的な協業活動
- 上記に関する周知、認知、研究の機会を計画/実行するために、関西支部との連携を強化する
- グローバル活動
 - CSA HIM-WG のグローバル活動への積極的コミットメント
 - CSA 海外チャプターとの連携活動強化（例：中国、東南アジア、インド、EMEA）
- 関西支部との連携強化活動

～関西ヘルスケア業界&製造業界におけるクラウドセキュリティ啓発活動

- 昨年度に引き続き、CSA Health Information Management WG の成果物を活用した紹介ブログと勉強会の連載企画を展開する

<実施案>

2023 年 6 月：ブログ「ゲノムデータのサイバーセキュリティとアクセス制御」

2023 年 7 月：ワークショップ「ゲノムデータのサイバーセキュリティとアクセス制御」

2023 年 8 月：ブログ「ロボット支援手術 (RAS) システムの脅威モデリング」

2023 年 9 月：ワークショップ「ロボット支援手術 (RAS) システムの脅威モデリング」

2023 年 10 月：ブログ「ゼロトラストアーキテクチャにおける医療機器開発と SBOM」

2023 年 11 月：ワークショップ「ゼロトラストアーキテクチャにおける医療機器開発と SBOM」

2023 年 12 月：ブログ「医療/ライフサイエンスにおけるデータ損失防止 (DLP)」

2024 年 1 月：ワークショップ「医療/ライフサイエンスにおけるデータ損失防止 (DLP)」

2024 年 2 月：ブログ「医療/ライフサイエンスにおけるハードウェア対応型セキュリティ」

2024 年 3 月：ワークショップ「医療/ライフサイエンスにおけるハードウェア対応型セキュリティ」

2024 年 4 月：ブログ：「医療/ライフサイエンスにおける DevSecOps」

2024 年 5 月：ワークショップ「医療/ライフサイエンスにおける DevSecOps」

◇ クラウドセキュリティワーキンググループ

(1) ワーキンググループの目的

クラウドセキュリティ WG は、特定の領域に捉われずに現場視点で現場が活用できる事項を題材とし、世に有効に活用できる情報を発信する。

(2) 2023 年度活動計画/目標

- 活動頻度：月次
- グループワーク要旨
 - ”(仮)グローバルクラウドのセキュリティアーキテクチャレビュー虎の巻”の公開、セミナー開催。
 - “Secure DevOps and Misconfigurations”翻訳版の公開。

- "クラウドコンピューティングのためのセキュリティガイドンス"の解説書の公開。
- セミナー
 - “クラウド重大セキュリティ脅威対策・DevSecOps のユースケース-“に関するセミナー開催。
- その他
 - ブログ公開。
 - WG ページの整理。(WG の概要や活動要旨など)

(1)

◇ SDP ワーキンググループ

(1) ワーキンググループの目的

SDP ワーキンググループは、日本における SDP の普及に向け、テクノロジーおよびビジネスへの適用について幅広く議論し情報提供を行う。

(2) 2022 年度活動計画／目標

- CSA 本部のゼロトラストをベースにした情報発信
- CSA 本部が、今後公開してくる公開資料の日本語版提供

◇ DevSecOps／サーバーレス・ワーキンググループ

(1) ワーキンググループの目的

DevSecOps／サーバーレスワーキンググループは、グローバルレベルで、アプリケーションコンテナ、マイクロサービス、サーバーレスのセキュリティに関する基本的な調査研究を行い、セキュアなアプリケーションコンテナ／マイクロサービス／サーバーレス利用のためのガイドンスやベストプラクティスを発行するとともに、日本国内レベルでは、クラウドサービスのユーザー／コンシューマー向けに、アプリケーションコンテナ／マイクロサービス／サーバーレスのセキュリティに関する啓発活動を行うことを目的とする。

(2) 2023 年度活動計画／目標

- 国内活動
 - 本ワーキンググループは、日本クラウドセキュリティアライアンスのインディビジュアル／コーポレート／アフィリエイトメンバーからのボランティアによって構成される。
 - 本ワーキンググループは、運営委員会の下で、主要なプロジェクトマネジメント、オンラインワークプレイス、テクニカルライティング支援、日本クラウドセキュリティアライアンス理事会への報告をコーディネートする。
 - これらに関連する周知、認知、研究の機会を計画／実行するために、関西支部や、他の WG、各種団体・メディアとの連携活動を強化する。
- グローバル活動
 - CSA DevSecOps WG（旧 Application Containers & Microservices WG）および Serverless WG のグローバル活動への積極的コミットメント
 - Health Information Management WG、IoT WG、Zero Trust WG 等、コンテナ／マイクロサービス／サーバーレスアーキテクチャを共通基盤とする他の WG との連携活動強化
 - CSA 海外チャプターとの連携活動強化（例：中国、東南アジア、インド、EMEA）

- その他

- オンライン/オフラインのハイブリッド型活動を行うための会場やコミュニケーションツールの準備が必要

◇ 翻訳 WG

(1) ワーキンググループの目的

翻訳ワーキンググループ（翻訳 WG）は、CSA 本部が公開する様々な資料の日本語翻訳を推進するとともに、CSA ジャパンの翻訳プロセスそのものを改善していくことを目的とし以下の活動を行う。

- 翻訳作業の推進

CSA 本部が公開する資料のうち、翻訳対象を選定および決定する。

翻訳対象の文書規模に応じて、CSA ジャパン会員からボランティアを募集し遂行する。

翻訳作業、スケジュール管理、翻訳版公開の一連の作業をドライブする。

- 翻訳プロセスの改善

機械翻訳機能および翻訳差管理機能の利用の検討を行う。

訳語集の作成および保守を行う。

既存翻訳資料の見直しを行う。（各WGとの連携あり）

(2) 2023 年度活動計画／目標

- 未和訳 CSA 文書から選択した文書の和訳
- 翻訳、訳語管理、文書 DTP ツール等の環境整備および運用

◇ クラウドセキュリティ自動化 WG

(1) ワーキンググループの目的

SaaS やクラウドネイティブの利用が広がって、大部分のセキュリティ責任がプロバイダ側になってきている。しかしながら、利用者責任によるセキュリティ対応、また、利用者としてクラウドのセキュリティを評価することが求められるため、クラウド利用者の手間は減っていないと考えられる。「クラウドセキュリティ自動化 WG」では、「自動化」を理想のゴールとするが、クラウドのセキュリティの設定、監視、管理、および、クラウドのセキュリティ評価をできるだけ簡単化する方法について調査、検討、情報公開を行う。

(2) 2023 年度活動計画／目標

- 活動計画

- FY2022 に続き、以下に取り組み、ブログを中心とした情報発信を行う。
 - ◇ CSPM, SSPM, CNAPP によるセキュリティ設定の簡単化を調査・検討。
 - ◇ チェックシートについて、利用者の作成およびプロバイダの回答プロセスの簡単化を調査・検討。
 - ◇ DevOps、クラウドネイティブにおける開発の自動化を調査・検討。
 - ◇ CASB を用いたクラウドサービスのセキュリティ評価の方法と簡単化のための使い方を調査・検討。
 - ◇ VRM/TPRM を用いたクラウドサービスのセキュリティ評価の簡単化（ユースケースを含む）を調査・検討。

◇ ガイダンス WG

(3) ワーキンググループの目的

ガイダンスワーキンググループは、CSA ジャパンが提供しているガイダンスの翻訳版を用いてクラウドセキュリティについて学ぶとともに、現ガイダンスの翻訳および訳語のレビューを行い、次期バージョンの翻訳品質の改善に向け幅広く議論し情報提供を行う。

(4) 2023年度活動計画／目標

● 活動計画

- **ガイダンス V5.0 に向けての作業を開始する。**
- ◇ **CSA 本部の Peer Review への参画**
- ◇ **V5.0 先出情報を元にした WG 内勉強会の実施**
- ◇ **V5.0 が公開された場合、速やかに翻訳作業に拍手する。**

◇ SLA-Innovation WG

(1) ワーキンググループの目的

CSAJC SLA イノベーションワーキンググループは、CSA EMEA の SLA-Ready および関連する地域連携活動に準拠して、標準化と透明性の視点から、クラウドセキュリティの SLA (Service Level Agreement) に関する基本的な調査研究を行い、潜在力のある中小企業・小規模事業者や地域のイノベーションコミュニティ向けに、クラウドサービス利用時のセキュリティ／プライバシー保護に関する啓発活動を推進することを目的とする。

(2) 2022年度活動計画／目標

● 活動休止

◇ Blockchain ワーキンググループ

(1) ワーキンググループの目的

Blockchain ワーキンググループでは、Blockchain についてクラウド上で分散台帳を保管する際のセキュリティ要件を含めたクラウド環境の選定基準の観点から研究を行う。2017 年 1 月 17 日にスタート。

1. クラウド上で分散台帳を保管する際のセキュリティ要件を含めたクラウド環境の選定基準を研究し、ガイドラインとして取り纏め、公表する。
2. CSA 本部の BlockChain/Distributed Ledger WG (※以下、Blockchain WG) 及び Internet of Things WG (※以下、IoT WG) と協調して活動する。両 WG からの情報をもとに、日本への情報提供を行う。
3. ベンダー主導のブロックチェーン／分散台帳の研究成果を CSA 本部の BlockChain WG に提案していく。

(2) 2022年度活動計画／目標

● 活動休止

◇ ビッグデータユーザーワーキンググループ

(1) ワーキンググループの目的

CSA-JC ビッグデータユーザーワーキンググループは、CSA グローバルの Big Data Working

Group の活動に準拠して、データ中心の視点から、エンドユーザー向けに、ビッグデータにおけるセキュリティ/プライバシー保護を支援するための基本的な調査研究を提供し、ビッグデータ環境のクラウドセキュリティに関する啓発活動を推進することを目的とする。具体的な活動に際しては、一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンスにおける各ワーキンググループおよびその他のイニシアティブとの連携を図るものとする。

(2) **2022年度活動計画/目標**

➤ 活動休止

◇ モバイルユーザーワーキンググループ

(1) **ワーキンググループの目的**

CSA-JC モバイルユーザーワーキンググループは、CSA グローバルの Mobile Working Group の活動に準じて、クラウド中心の視点から、エンドユーザー向けにセキュアなモバイルデバイスコンピューティングを支援するための基本的な調査研究を提供し、モバイル環境のクラウドセキュリティに関する啓発活動を推進することを目的とする。具体的な活動に際しては、一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンスにおける各ワーキンググループおよびその他のイニシアティブとの連携を図るものとする。

(2) **2022年度活動計画/目標**

➤ 活動休止

◇ ICS ワーキンググループ (CSA 本部 WG)

(1) **2022年度活動計画/目標**

● 活動休止

◇ SDN ワーキンググループ

(1) **ワーキンググループの目的**

SDN ワーキンググループは、SDN を技術的に解説し、SDN のクラウドへの利用方法および優位性を解説し、ガイダンスでは理解しきれない点をカバーしていくことで、ガイダンスに関する SDN の解説書的な位置づけとなるようなアウトプットの作成を目指して活動していく。

(2) **2022年度活動計画/目標**

● 活動計画
活動休止

◇ データセキュリティ ワーキンググループ

(1) **ワーキンググループの目的**

クラウド上のデータ保護として、アクセス管理、暗号化、鍵管理、モニタリング等の推奨事項が記載されているが、プロバイダのデータ保護対策の内容の把握、利用者側で取るべき対策、プロバイダが提供するデータ保護の機能の利用など、具体的な対応方法をガイダンスから読み解くことが難しい状況である。データセキュリティ WG では、このような課題に対してよりわかりやすい技術的な解説を行い、ガイダンスのデータ保護に関する解説書的な位置づけとなるようなアウトプットの作成を目指す。

(2) **2022年度活動計画/目標**

● 活動休止



以上